

対象機種	FRC-140T SET (SESL II高機能用)
適合センサ器具	DF-20204XD7, DF-20204ZD7, DF-20204YS1, DF-20204YS2

お客様へ




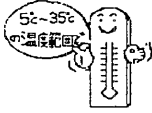

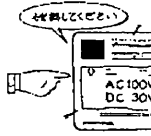

このたびは東芝リモコン送信機をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。ただしくお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読みください。お読みになったあとも必ず保管してください。

工事店様へ

工事が終了しましたらこの取扱説明書は必ずお客様へお渡しください。

■安全上のご注意

商品および取扱説明書には、お使いになる方や他人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、商品を安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。

<p>警告 この項目を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> リモコン送信機を改造したり、部品を変更しないでください。感電、火災、火傷等の原因となります。 	  <p>改造</p>
<p>注意 この項目を無視して誤った取扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される場合及び物的損害の発生が想定される内容を示します。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> このリモコン送信機は非防水です。屋外や湿気の多い場所では使用しないでください。 	 <p>湿気</p>
<ul style="list-style-type: none"> 暖房器具、ガス器具等の真上・付近等、温度の高い場所では使用しないで下さい。 (このリモコンは5～35℃の温度範囲で使用するように検討してあります。) 	  <p>温度</p>
<ul style="list-style-type: none"> リモコン送信機に表示された電圧（単4形乾電池：2本）以外でご使用しないでください。 	  <p>電源電圧</p>



リモコンホルダー



リモコンホルダー
取付用木ねじ（2本）

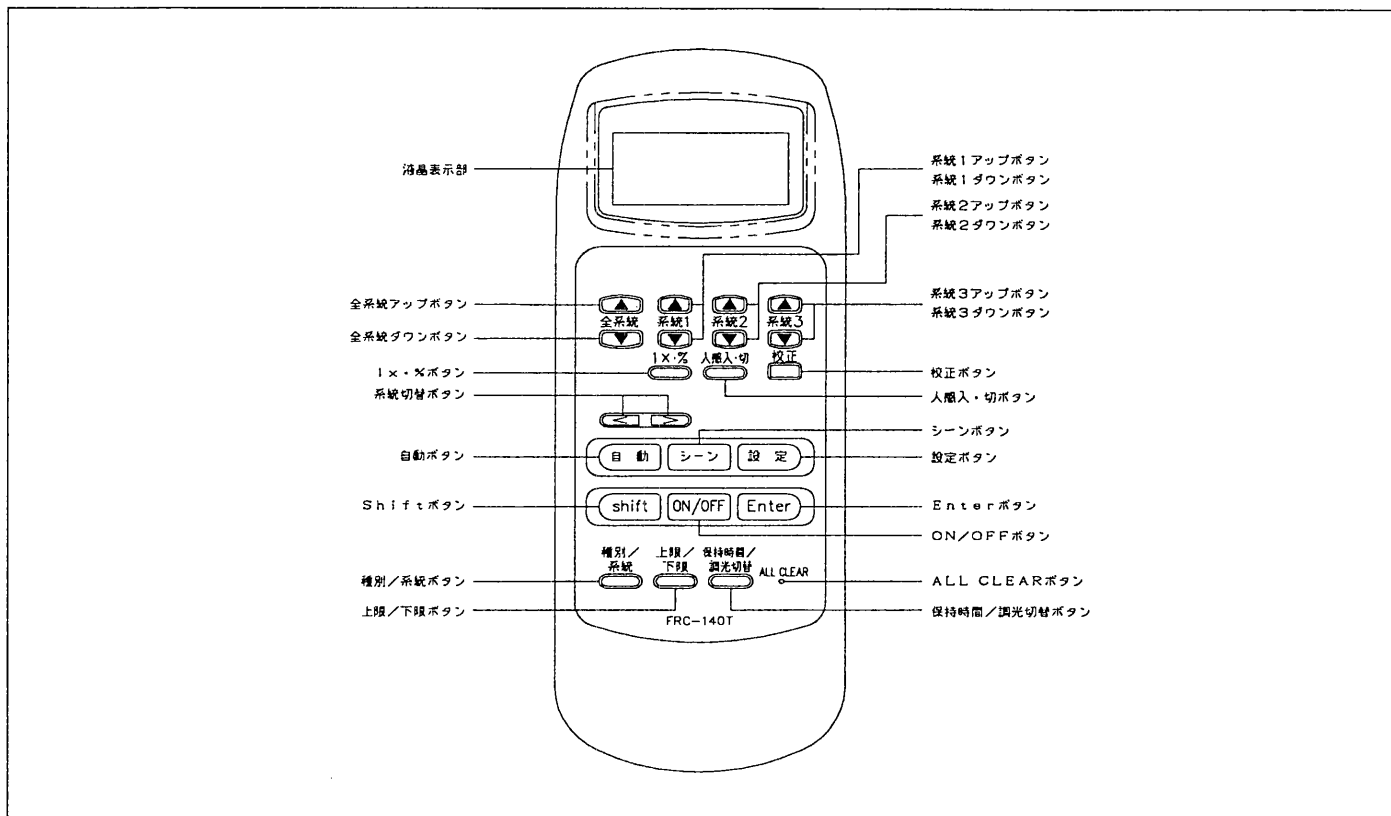
附属部品



単4形
アルカリ乾電池（2本）

ご使用方法

1. リモコン送信機の各部の名前



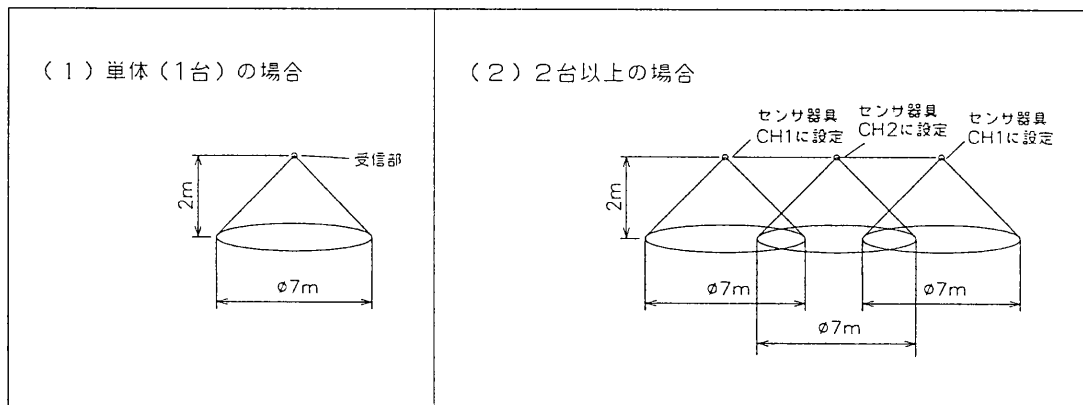
2. リモコン送信機の操作範囲

リモコン操作は下図のリモコン操作範囲内にて行ってください。

隣接してセンサ器具、センサ付き照明器具の受信部が取り付けられている場合には、干渉するおそれがありますので受信部側、送信部側のチャンネルを下図のように分けてください。

リモコン操作は送信機を受信部に向けて操作してください。

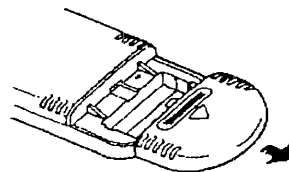
設定・登録・状態確認操作等の場合には下図のリモコン操作範囲内のうち、特にセンサ器具（受信部）直下にて操作してください。



3. 乾電池の入れかた

- (1) バッテリーカバーをはずします。

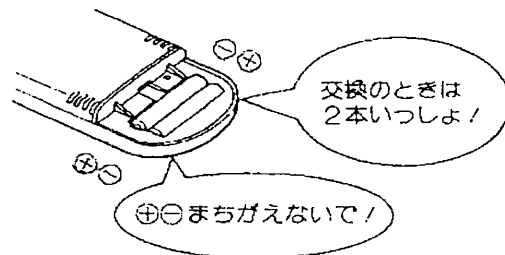
リモコン送信機裏面のバッテリーカバーを手前に引いてください。



- (2) 乾電池を入れます。

東芝アルカリ乾電池単4形を2本入れてください。

乾電池の寿命は1日10回の使用で1年がめやすです。



- (3) バッテリーカバーを閉めます。

ご注意

長期にわたりリモコン送信機を使用しない場合には乾電池をはずしておいてください。液もれなどでリモコン送信機をいためる原因となります。また、液もれによるやけどの原因となります。

4. リモコンホルダーの取り付けかた

- (1) 両面テープなどをホルダーに貼ります。

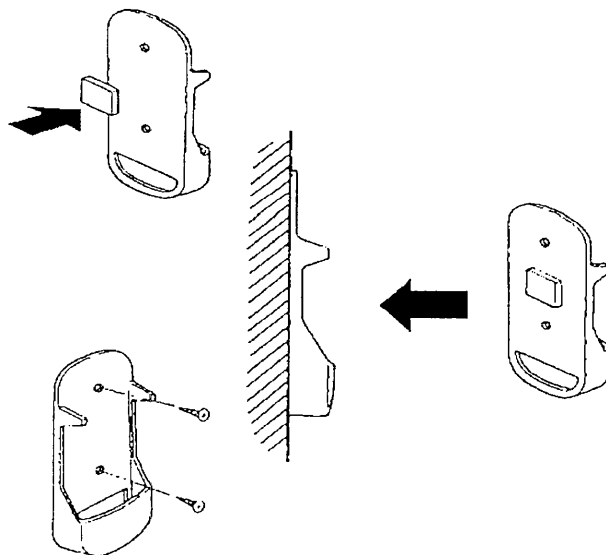
- (2) ホルダーを壁等に仮止めします。

- (3) 木ねじで固定します。

付属の木ねじで確実に固定してください。

ご注意

リモコンホルダーに、リモコン送信機を入れたままセンサ器具を動作させることはできません。ホルダーからリモコン送信機を取り出して操作してください。



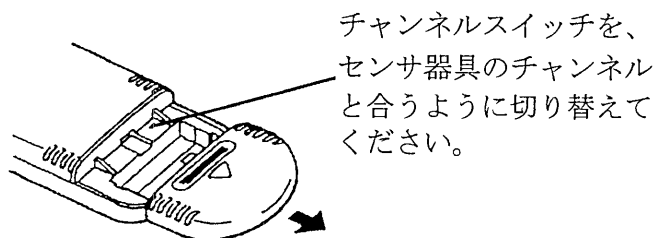
5. リモコンのチャンネルの切替えかた

(1) バッテリーカバーをはずします。

リモコン送信機裏面のバッテリーカバーを手前に引いてください。

(2) チャンネルスイッチを切替えます。

スライドスイッチを目的のチャンネルの番号に合わせます。

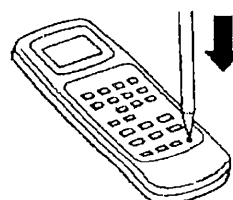


(3) バッテリーカバーを閉めます。

6. ALL CLEAR

ALL CLEARボタンをペン先などの先のとがったもので押すとセンサ器具の設定状態がALL CLEAR（出荷時設定）されます。出荷時設定は次の通りです。

器具（＝電子安定器）の種類	全系統	25～100%調光の電子安定器搭載の器具
あかりセンサ		1台で全系統制御
上限設定	全系統	100%
下限設定	全系統	25%
シーン	全系統	82%
人感保持時間		6分
不在時調光率		25%



リモコンの操作方法

東芝センサ器具は通常「自動」モードで動作することで、あかりセンサや人感センサにより適正なあかるさに照明制御するシステムです。

本リモコン送信機は東芝センサ器具専用のリモコン送信機で以下の設定・操作ができます。

- (1) 器具やリモコンの設定状態をALL CLEAR (=出荷時設定状態) する。…………… 6 項参照
 - (2) システムの環境設定 (制御する器具 (=電子安定器) の種別の設定など)
 - (3) 自動制御を行うための諸設定の登録・設定
 - (4) 手動によるあかるさのアップ・ダウン・シーン再現・OFFの操作や自動制御への復帰操作
- また、設定の前に照明器具への調光信号線などの配線に間違いがないか必ず確認してください。

調光信号線の結線確認方法

(1) 方法 1

1. センサ器具部分でセンサ器具から出ている調光信号線を端子から全てはずします。
2. 照明器具の電源を入れます。照明器具は全光で点灯します。
3. はずしたセンサ器具から出ている調光信号線に 9 V 電池を接触させます。
4. 照明器具が消灯します。正しいエリアの照明器具が消灯したか確認します。
5. はずした調光信号線をただしく調光信号線端子へ接続します。

(2) 方法 2

1. センサ器具と照明器具の電源を入れます。
2. リモコン送信機を使って各系統の照明を ON/OFF させます。(17 項を参照)
3. 正しいエリアの照明器具が ON/OFF したか確認します。

設定しなければいけないこと

東芝センサ器具をご使用になる場合、最低限以下の設定・登録作業をおこなってください。

(1) システムの環境設定

1. 制御する器具 (=電子安定器) の種別の設定作業…………… 7 項参照
2. あかりセンサの接続状態の確認作業…………… 8 項参照
3. あかりセンサの校正作業…………… 9 項または 10 項参照
※ あかりセンサの校正は 9 項の「あかりセンサの校正」または、10 項の「あかりセンサの簡易校正」のどちらか一方を行ってください。

(2) 自動制御を行うための諸設定の登録・設定

1. 自動制御する「目標値」の設定作業…………… 11 項参照
2. 人感センサの保持時間の設定作業…………… 12 項参照
3. 人感センサの人不在時調光率の設定作業…………… 13 項参照
4. 自動制御時の調光範囲の「上限」「下限」の設定作業…………… 14 項参照

システムの環境設定

まず、初めに東芝センサ器具で制御する照明器具に搭載されている電子安定器（以下 インバータと表記）の種類の設定が必要です。

次に、あかりセンサの接続状態の確認作業が必要です。

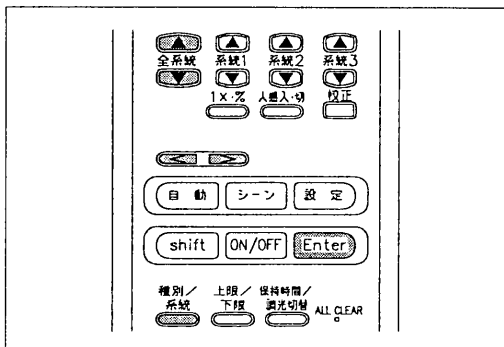
最後にあかりセンサの校正を行います。あかりセンサの校正は、照度計を用いた校正と照度計を用いない簡易校正の2種類があり、どちらか一方を行ってください。

7. インバータの種類を設定・登録する

使用する系統全てが25～100%調光形のインバータであればこの設定は不要です。

出荷時の設置から本設定を変更したり、使用するインバータの調光率が違うときには、本設定を必ず行ってください。インバータの種類の設定は必ず最初に行ってください。11項の自動制御のための諸設定を行った後でインバータの種類は変更しないでください。液晶上の表示値と実際の制御状態とが一致しくなくなります。

<7-1>各系統に接続されているインバータを系統毎に手動で設定登録する場合

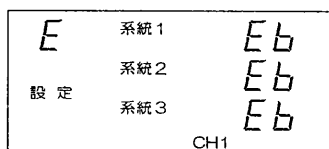


- (1) 種別／系統ボタンを押します。
- (2) インバータ種別判別モードに入り、液晶表示部は<表示例1>のようになります。
- (3) 系統切替ボタンの<または>ボタンを操作して、設定登録する系統を切替えます。
 > ボタン操作で全系統（自動判別：表示例1）から系統1（表示例2）→系統2（表示例3）→系統3（表示例4）と切替わり、< ボタン操作で逆に切替わります。
- (4) インバータの種別を全系統アップボタンまたは、全系統ダウンボタン操作で切替えます。

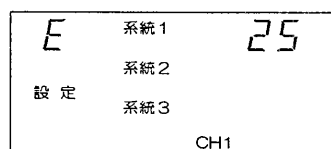
表示される2桁の数字がインバータの下限の調光率を表します。
 例えば25と表示されれば25%～100%調光のインバータ

であることを意味します。全系統アップボタン操作で25→50→60→02→05→25と切替わり、全系統ダウンボタンで逆向きに切替わります。

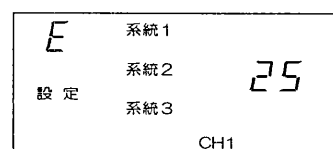
- (5) Enterボタンを押すと個別系統のインバータ種別が設定登録されます。各系統毎にインバータの種別を設定登録してください。
- (6) 自動ボタンを押して自動制御とすることでインバータ種別判別モードを終了します。
- (7) またこのモード中に1分間何の操作もされなければ液晶表示はブランク表示（無表示）となりインバータ種別判別モードを終了します。



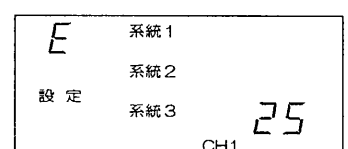
<表示例1>



<表示例2>



<表示例3>



<表示例4>

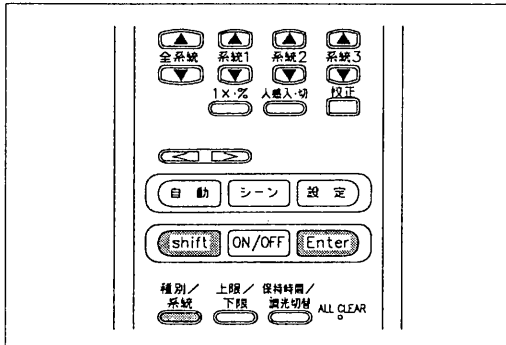
8. あかりセンサの接続状態の確認

あかりセンサを系統毎に3台使用するか、1台のあかりセンサで全系統を制御するか設定します。確認作業により、あかりセンサがどの系統に接続されているか自動判別します。

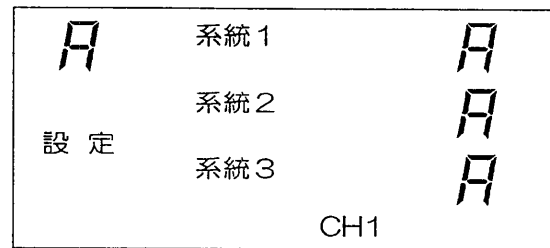
<8-1>あかりセンサを1台使用する場合

- (1) 出荷時にはあかりセンサ1台で全ての系統を制御するように設定されています。本設定は不要です。
- (2) ただし、出荷時から設定を変更した場合は<8-2>項の設定を行ってください。

<8-2>あかりセンサを2～3台使用する場合



- (1) Shift ボタンを押しながら種別/系統ボタンを押します。
- (2) 系統判別モードに入り、液晶表示部は、<表示例5>のようになります。
- (3) Enter ボタンを押すと自動的にあかりセンサの接続を判別します。
- (4) 自動ボタンを押して自動制御とすることでインバータ種別判別モードを終了します。
- (5) また、このモード中に1分間何の操作もされなければ液晶表示はブランク表示（無表示）となり系統判別モードを終了します。



<表示例5>

9. あかりセンサの校正…照度計を用いた校正方法

あかりセンサの校正は設置場所の環境条件が特殊な場合や厳密な照度設定を行う場合に実施してください。この作業を行わない場合には、液晶表示部に表示される数値と実測値との間に著しい差異が発生する場合があります。

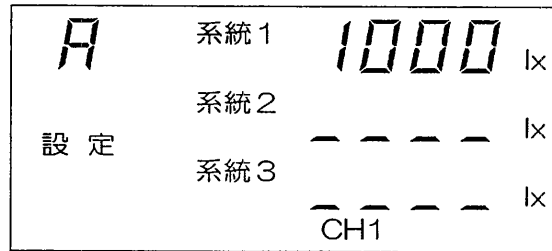
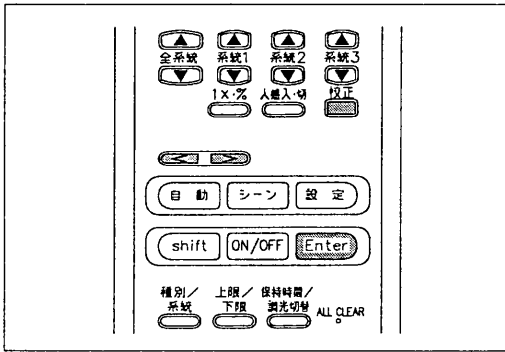
あかりセンサの校正は本9項または10項のあかりセンサの簡易校正のどちらか片方を実施してください。

<9-1>1000 [lx] 校正

- (1) 照度計を用意し床面等に置きます。
- (2) 17項の手動操作により1000 [lx] に合わせます。
(または500 [lx], 1500 [lx], 2000 [lx])
- (3) 校正ボタンを押すとあかりセンサの校正モードに入ります。
- (4) これにより液晶表示部は<表示例6>のようになります。
- (5) 系統切替ボタンの > ボタンまたは < ボタンを操作して校正したい系統を選択します。
- (6) Enter ボタンを押すと選択された系統が校正されます。
- (7) 校正は各系統毎に実施してください。
- (8) 自動ボタンを押して自動制御とすることで校正モードを終了します。
- (9) また、このモード中に1分間何の操作もされなければ液晶表示はブランク表示（無表示）となり、あかりセンサの校正モードを終了します。
- (10) 1000 [lx] 以外の照度で校正を行いたい場合は500 [lx], 1500 [lx] および2000 [lx] での校正が可能です。

具体的には(2)項で手動操作により照度を合わせた後、(3)項で校正ボタンを押す度に校正照度値を1500 [lx] → 2000 [lx] → 500 [lx] と変更でき、これにより目的の校正照度値表示と

し、Enter ボタンを押します。



<表示例 6>

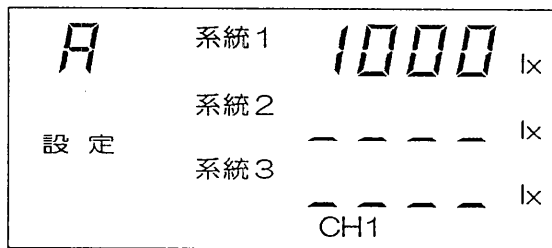
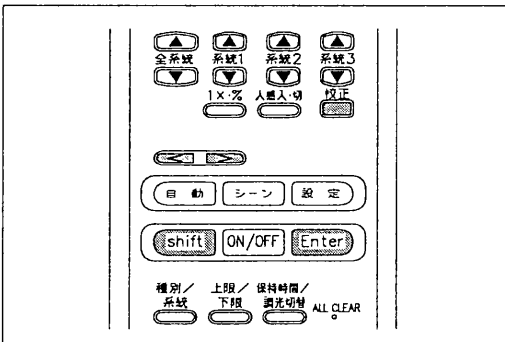
10. あかりセンサの簡易校正…………… ……………照度計を用いないで簡易的に校正する場合

9項の校正作業をすでに実施された場合は本10項の設定操作を不要です。

あかりセンサの簡易校正モードは照度計を用いずに設定をおこなうモードです。

設計照度が500 [lx] から2000 [lx] までの間で100 [lx] 刻みの場合に対応しています。

- (1) Shift ボタンを押しながら校正ボタンを押すと、あかりセンサの簡易校正モードに入ります。
- (2) 液晶表示部は<表示例 7>のようになります。
- (3) 系統切替ボタンの > ボタンまたは < ボタンを操作して設定する系統を選択します。
- (4) 全系統アップ・ダウンボタンを操作してlxの数値を変更します。
数値は500~2000 [lx] 間で100 [lx] 刻みです。
- (5) 選択したlx値でEnter ボタンを押すと校正されます。
- (6) (3) 項から (5) 項を繰り返し各系統を個別に校正します。
- (7) 自動ボタンを押して自動制御とすることで簡易校正モードを終了します。
- (8) また、このモード中に1分間何の操作もされなければ液晶表示はブランク表示(無表示)となり、あかりセンサの簡易校正モードを終了します。



<表示例 7>

自動制御を行うための諸設定

自動制御を行うための諸設定としては以下の4項目があります。

1. 自動制御する「目標値」の設定
2. 人感センサの保持時間の変更(設定)
3. 人感センサの人不在時調光率の変更(設定)
4. 自動制御時の調光範囲の「上限」「下限」の変更(設定)

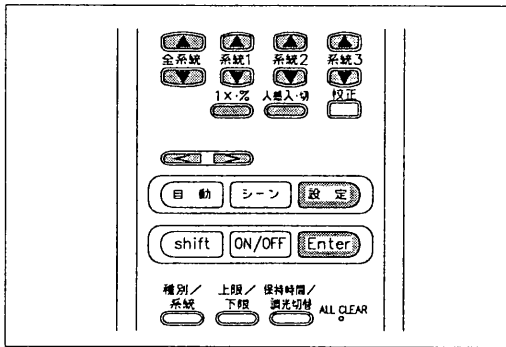
1 1. 自動制御の設定

設定のパターンは3接点入力の外部接点入力の切替により8種パターンが設定可能です。
 ただし下表1の外部接点の表示番号4のみは[1x]での設定ができないように特殊化されています。
 外部接点を使用しない場合は外部接点の表示番号1で設定・登録してください。

<表1>

外部接点の表示番号	外部接点3状態	外部接点2の状態	外部接点1の状態
1	オープン (開放)	オープン (開放)	オープン (開放)
2	オープン (開放)	オープン (開放)	ショート (短絡)
3	オープン (開放)	ショート (短絡)	オープン (開放)
4	オープン (開放)	ショート (短絡)	ショート (短絡)
5	ショート (短絡)	オープン (開放)	オープン (開放)
6	ショート (短絡)	オープン (開放)	ショート (短絡)
7	ショート (短絡)	ショート (短絡)	オープン (開放)
8	ショート (短絡)	ショート (短絡)	ショート (短絡)

<11-1> 1xでの設定

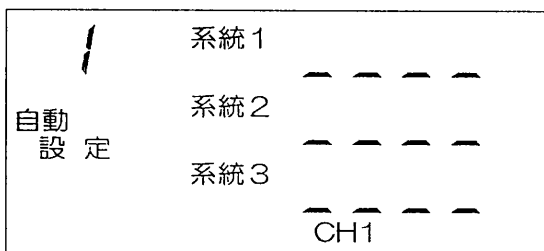


- (1) 設定ボタンを押すことにより自動制御の設定モードに入ります。これにより液晶表示部の表示は<表示例8>のようになります。
- (2) 系統切替ボタンの > ボタンまたは < ボタンを操作して8種パターンのどのパターンを設定するか選択します。
- (3) Enterボタンを押します。
- (4) センサ器具から現時点の設定データが送られ液晶表示部に表示されます。(例えば<表示例9>) このときエラー表示(<表示例16>)の場合には、センサ器具の直下付近で、(3)項操作(Enter操作)から操作を再開してください。

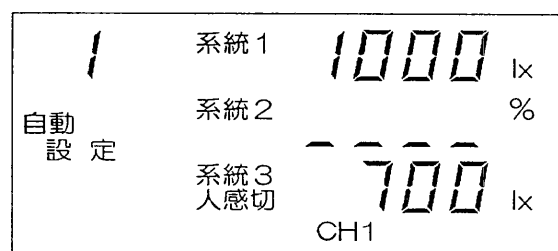
- (5) 全系統/系統1/系統2/系統3アップ・ダウンボタンを使用して設定値を変更します。
- (6) 液晶表示部は設定変更選択中の系統は点滅表示となります。
- (7) 人感入・切ボタンを操作することで、設定変更中(点滅表示の系統)の系統において人感センサ入切の切替ができます。
- (8) Enterボタンを押すと液晶表示部の点滅表示の系統が設定登録されます。
- (9) 一つの系統を変更する度にEnterボタンを押して設定登録してください。
- (10) 自動ボタンを押して自動制御とすることで設定モードを終了します。
- (11) また、このモード中に1分間何の操作もされなければ液晶表示はブランク表示(無表示)となり、設定モードを終了します。

<11-2> %での設定

- (1) 1x・%ボタンを操作することで設定変更中(点滅表示の系統)の系統において1x⇔%の切替ができます。%(調光率)データは表示せず_ (アンダーバー)表示となります。



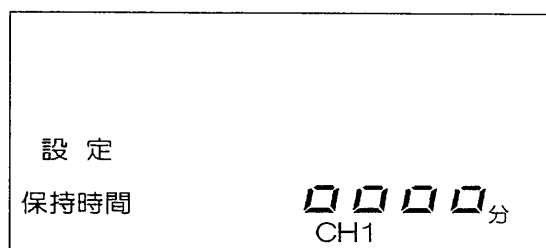
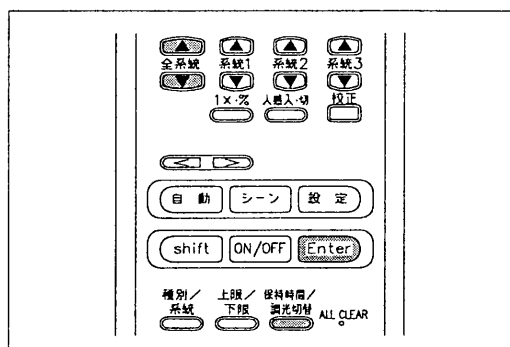
<表示例8>



<表示例9>

1 2. 人感保持時間の変更

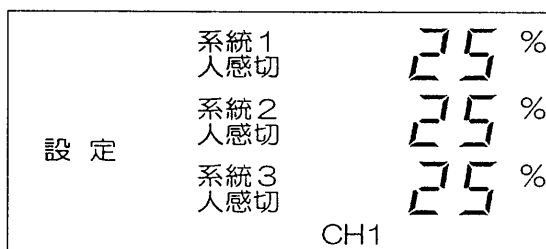
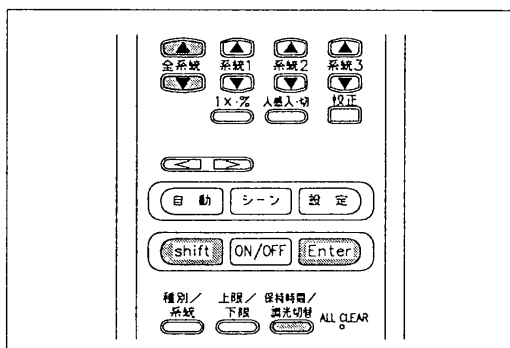
- (1) 保持時間／調光切替ボタンを押すと人感保持時間変更モードに入ります。
- (2) 液晶表示部は<表示例10>のようになります。
- (3) 全系統アップ・ダウンボタンを操作して保持時間を切替ます。
- (4) 保持時間は確認用（5秒）と1分から30分までの1分刻みで設定できます。
- (5) 液晶表示部の表示は確認用（5秒）の場合は○○○○表示です。
- (6) 選択した時間でEnterボタンを押すと設定が登録されます。
- (7) 自動ボタンを押して自動制御とすることで人感保持時間変更モードを終了します。
- (8) また、このモード中に1分間何の操作もされなければ液晶表示はブランク表示（無表示）となり人感保持時間変更モードを終了します。



<表示例10>

1 3. 人感不在時調光率の変更

- (1) Shiftボタンを押しながら保持時間／調光切替ボタンを押すと人感不在時調光率の変更モードに入ります。
- (2) 液晶表示部は<表示例11>のようになります。
- (3) 全系統アップ・ダウンボタンを操作して人感不在時調光率を切替ます。
- (4) 人感不在時調光率は0%（消灯）と20%から85%までの間で5%刻みで設定できます。
- (5) 選択した調光率でEnterボタンを押すと設定が登録されます。
- (6) 自動ボタンを押して自動制御とすることで人感保持時間変更モードを終了します。
- (7) また、このモード中に1分間何の操作もされなければ液晶表示はブランク表示（無表示）となり人感不在時調光率の変更モードを終了します。



<表示例11>

1 4. 調光の上限はたは下限の設定変更

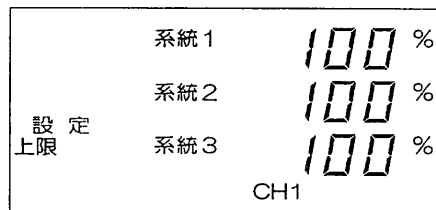
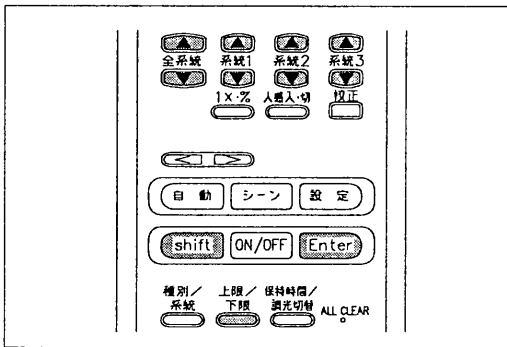
自動制御時の調光範囲における上限と下限にリミットを設定することができます。
上限値と下限値とは15%以上の差が必要です。

<14-1> 上限の設定

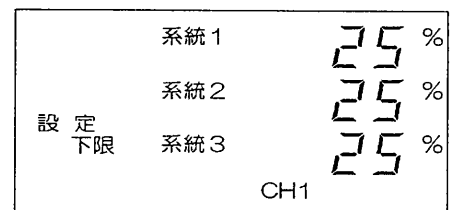
- (1) 上限/下限ボタンを押すと上限設定変更モードに入ります。
- (2) 液晶表示部は<表示例12>のようになります。
- (3) 全系統/系統1/系統2/系統3アップ・ダウンボタンを操作して上限値の数値を変更します。
- (4) 選択した調光率でEnterボタンを押すと設定が登録されます。
- (5) 自動ボタンを押して自動制御とすることで上限値設定変更モードを終了します。
- (6) また、このモード中に1分間何の操作もされなければ液晶表示はブランク表示（無表示）となり、上限値設定変更モードを終了します。

<14-2> 下限の設定

- (1) Shiftボタンを押しながら上限/下限ボタンを押すと下限設定変更モードに入ります。
- (2) 液晶表示部は<表示例13>のようになります。
- (3) 全系統/系統1/系統2/系統3アップ・ダウンボタンを操作して下限値の数値を変更します。
- (4) 選択した調光率でEnterボタンを押すと設定が登録されます。
- (5) 自動ボタンを押して自動制御とすることで下限値設定変更モードを終了します。
- (6) また、このモード中に1分間何の操作もされなければ液晶表示はブランク表示（無表示）となり、下限値設定変更モードを終了します。



<表示例12>

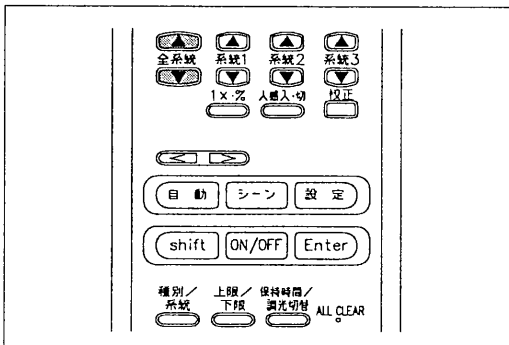


<表示例13>

リモコンによる手動操作方法

1 5. 照明器具の手動でのあかるさのアップ・ダウン

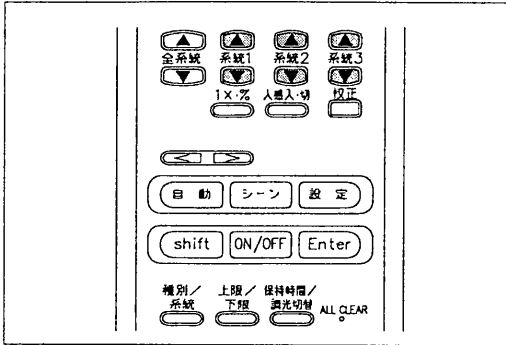
<15-1> 全系統を同時にアップ・ダウンしたいとき



- (1) 全系統アップボタンを1回押すと、全系統のあかるさが1段階アップします。
※ 全範囲の変化には16回の操作が必要です。
操作前に中途のあかるさの場合は、16回未満の操作で上限のあかるさとなります。
- (2) 全系統ダウンボタンを1回押すと、全系統のあかるさが1段階ダウンします。
※ 全範囲の変化には16回の操作が必要です。
操作前に中途のあかるさの場合は、16回未満の操作で下限のあかるさとなります。

- (3) このとき液晶表示部は<表示例14>のように表示されます。
 手動操作を示す「手動」とチャンネルデータが表示されます。
 各系統の調光率のデータは表示されません。調光率データをお知りになりたいときには手動操作後に現在の制御出力状態を確認してください。
 ※ 操作方法については、本取扱説明書19項の「現在の制御出力状態をお知りになりたいとき」をご参照ください。
- (4) 何の操作もされなければ液晶表示部は1分でブランク表示（無表示）となります。

<15-2>個別の系統をアップ・ダウンしたいとき



- (1) 系統1アップボタンを1回押すと、系統1のあかるさが1段階アップします。
 ※ 全範囲の変化には16回の操作が必要です。
 操作前に中途のあかるさの場合は、16回未満の操作で上限のあかるさとなります。
- (2) 系統1ダウンボタンを1回押すと、系統1のあかるさが1段階ダウンします。
 ※ 全範囲の変化には16回の操作が必要です。
 操作前に中途のあかるさの場合は、16回未満の操作で下限のあかるさとなります。

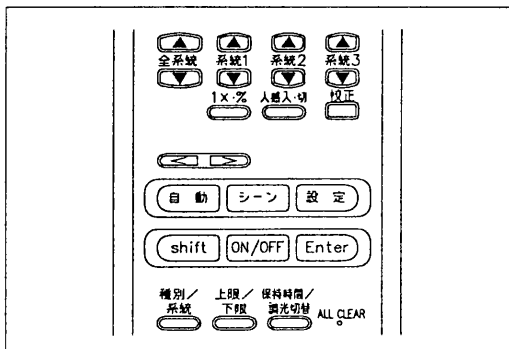
- (3) 同様に系統2のアップ・ダウンボタンを1回押すと系統2のあかるさがアップ・ダウンし、系統3アップ・ダウンボタンを1回押すと系統3のあかるさがアップ・ダウンします。
- (4) このとき液晶表示部は<表示例14>のように表示されます。
 手動操作を示す「手動」とチャンネルデータが表示されます。
 各系統の調光率のデータは表示されません。調光率データをお知りになりたいときには手動操作後に現在の制御出力状態を確認してください。
 ※ 操作方法については、本取扱説明書19項の「現在の制御出力状態をお知りになりたいとき」をご参照ください。
- (5) 何の操作もされなければ液晶表示部は1分でブランク表示（無表示）となります。

	系統1	— — — —	%
手動	系統2	— — — —	%
	系統3	— — — —	%
	CH1	— — — —	

<表示例14>

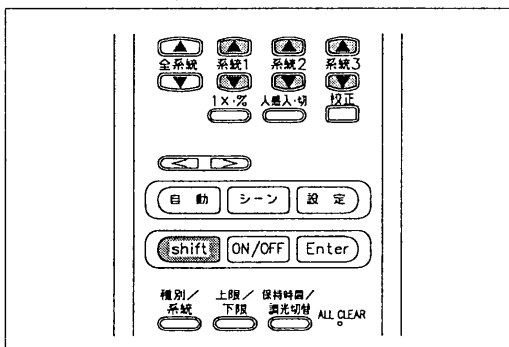
16. 照明器具のON/OFF

<16-1>全システムをON/OFFしたいとき



- (1) ON/OFFボタンを操作するたびに、全システムがON/OFFします。
- (2) この操作による液晶表示はありません。ブランク表示（無表示）となります。上限のあかるさとなります。
- (3) OFFからON時には自動制御となります。

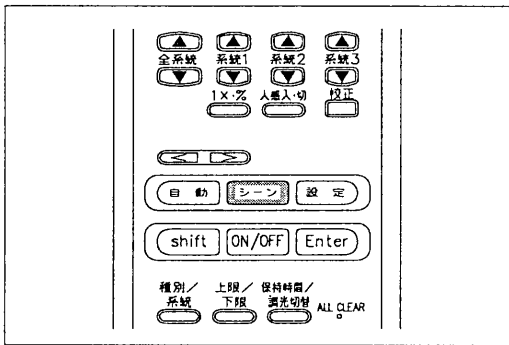
<16-2>個別の系統をON/OFFしたいとき



- (1) Shiftボタンを押しながら系統1アップボタンを押すと、系統1がONします。ON時は自動制御となります。
- (2) Shiftボタンを押しながら系統1ダウンボタンを押すと、系統1がOFFします。
- (3) Shiftボタンを押しながら系統2アップボタンを押すと、系統2がONします。ON時は自動制御となります。
- (4) Shiftボタンを押しながら系統2ダウンボタンを押すと、系統2がOFFします。
- (5) Shiftボタンを押しながら系統3アップボタンを押すと、系統3がONします。ON時は自動制御となります。
- (6) Shiftボタンを押しながら系統3ダウンボタンを押すと系統3がOFFします。
- (7) これらの操作による液晶表示はありません。ブランク表示（無表示）となります。

17. シーン制御

<17-1>シーンの再現



- (1) シーンボタンを押すことであらかじめ登録していた調光状態をシーン再現することができます。
※ 初期値は全系統82%調光です。
(ただし、25%~100%調光形のインバータ)
- (2) シーンボタンを押すことによりセンサ器具から現在登録ずみのシーン制御データが送信されてきます。そして、本リモコンの液晶表示部に表示されます。
- (3) 液晶表示部は例えば<表示例15>のようになります。
- (4) ここで<表示例16>のようになった場合は、センサ器具からのシーン制御データが、本リモコン送信機にうまく届かなかった

ことを意味します。シーン状態データを本送信機に表示させたい場合には、対象のセンサ器具の直下付近からセンサ器具に向かってシーンボタンを押してください。

- (5) その後、何の操作もされなければ液晶表示は1分でブランク表示（無表示）となります。
- (6) シーンは手動操作の一形態です。その後自動制御を行うためには自動ボタンを操作してください。

シーン	系統1	50 %
	系統2	30 %
	系統3	100 %
	CH1	

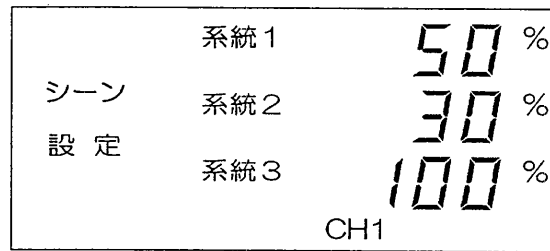
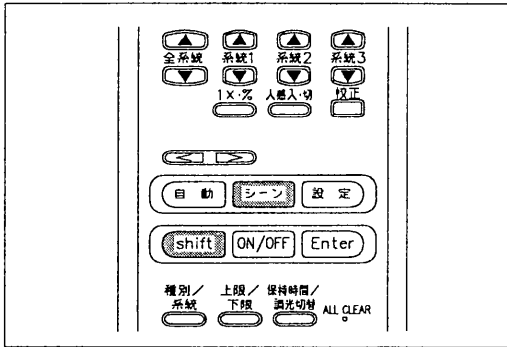
<表示例15>

系統1	---	---	---	%
系統2	---	---	---	%
系統3	---	---	---	%
	CH1			

<表示例16: データ受信エラーのとき>

< 17-2 >シーンの登録

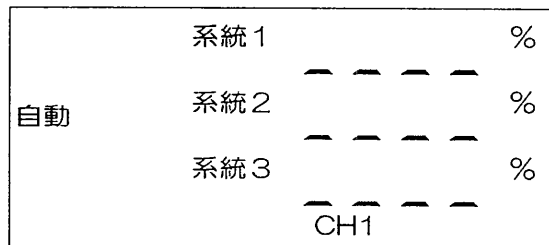
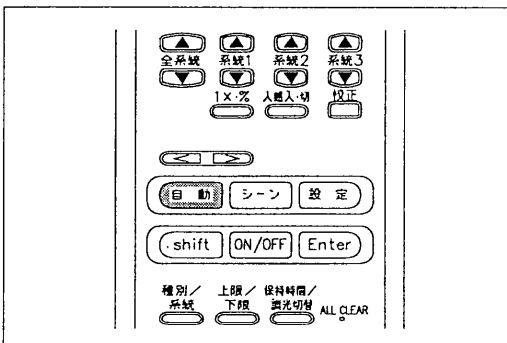
- (1) 手動（14項参照）により登録したいシーン状態に制御します。
- (2) このときの液晶表示部は<表示例14>の状態です。
- (3) Shiftボタンを押しながらシーンボタンを押すことでシーンが登録されます。
- (4) シーン登録により、センサ器具から制御データが送信されて液晶表示部に表示されます。
- (5) 液晶表示部は例えば<表示例17>のようになります。
- (6) その後、何の操作もされなければ液晶表示は1分でブランク表示（無表示）となります。
- (7) (6)の他に自動ボタンを操作してもシーン登録モードを抜けます。



<表示例17>

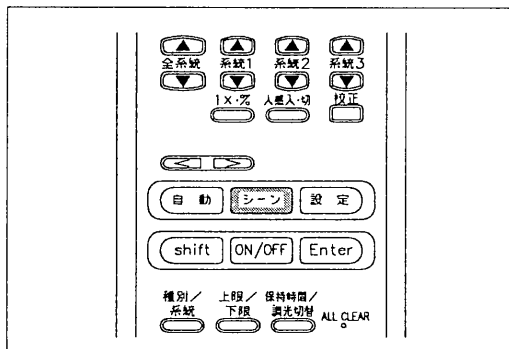
18. 自動制御への復帰操作

- (1) 自動ボタンを押すことで、手動制御（アップ・ダウンボタンやシーンボタン操作）状態を自動制御状態にもどします。
- (2) 液晶表示部の表示は<表示例18>のようになります。
- (3) その後、何の操作もされなければ液晶表示は1分でブランク表示（無表示）となります。



<表示例18>

19. 現在の制御出力状態をお知りになりたいとき



- (1) Shiftボタンを押しながら自動ボタンを押します。
- (2) 液晶表示部に現在の出力状態が表示されます。
- (3) この操作はセンサ器具の直下付近でおこなってください。

ON/OFFタイプ器具の操作方法

ON/OFFタイプの東芝センサ器具（DF-20204YS1, DF-20204YS2）は本リモコンにより、

1. 人感センサの保持時間の変更（設定）
2. リモコンによる手動ON/OFF操作

の2つのことができます。

20. 人感保持時間の変更

ON/OFFタイプの東芝センサ器具（DF-20204YS1, DF-20204YS2）の本体スイッチをリモコン受信可能に設定した状態で、人感保持時間を5秒（動作確認用）と1分刻みで1分から30分までの設定が可能です。

設定方法は本取扱説明書の12項人感保持時間の変更をご参照ください。

また、本体スイッチの設定方法は東芝センサ器具（DF-20204YS1, DF-20204YS2）の取扱説明書をご参照ください

21. リモコンによるON/OFF操作

ON/OFFタイプの東芝センサ器具（DF-20204YS1, DF-20204YS2）の本体スイッチをリモコン受信可能に設定した状態で、リモコンによるON/OFF操作が可能です。

設定方法は本取扱説明書の<16-1項>全システムをON/OFFしたいときの操作をご参照ください。

また、本体スイッチの設定方法は東芝センサ器具（DF-20204YS1, DF-20204YS2）の取扱説明書をご参照ください

■ 使用上のご注意

- ・リモコン送信機はセンサ器具の受信部に向けて操作してください。
- ・リモコン送信機は、東芝センサ器具専用です。リモコン式テレビなどには使用できません。
- ・リモコンの操作は2項のリモコン操作範囲内でおこなってください。
(ただし設定・登録・状態確認操作時にはセンサ器具直下付近で操作してください。)
- ・リモコン送信機の周辺に、図のようなしゃへい物がある場合は受信機(東芝センサ器具)が動作しない場合がありますので、その際はしゃへい物を避けて再度ボタン操作をおこなってください。
- ・天井・壁・床の色や材質で操作距離が短くなることがあります。
- ・リモコン送信機はリモコンホルダーに入れたままで操作しないでください。
- ・リモコン送信機の送・受信部、東芝センサ器具の受信部は汚れますと動作しにくくなりますので、乾いた布で拭いてください。
- ・リモコンで消灯した場合、東芝センサ器具はマイコンを使用しているためわずかな電流が流れて約5Wの電力を消費します。長時間お使いにならないときは必ずセンサ器具の電源を切って節電を心がけてください。
- ・リモコン送信機は落としたり、水をかけたり、踏みつけたりしないでください。故障の原因となります。
- ・乾電池が消耗してくると動作しにくくなりますのでその際は新しい乾電池と交換してください。
- ・乾電池交換の再は必ず2本とも交換してください。動作不良の原因となります。
- ・長期にわたり、リモコン送信機を使用しない場合は乾電池をはずしておいてください。液漏れなどでリモコン送信機をいためる原因となるほか、液漏れによりやけどする危険性があります。
- ・照明器具やエアコンの送風口等に近い位置に受信部がある時リモコンが正常に動作しないことがあります。

保証について

- ・保証期間は、商品お買い上げ日より1年間です。
但し、蛍光灯器具・HID器具の安定器(インバータバラスト含む)については3年間です。
- ・ランプ、点灯管、電池などの消耗品やセード、リモコン送信機は対象外です。
- ・24時間連続使用など、1日20時間以上の長時間使用の場合は、上記の半分の期間とします。

- ・ご転居されたり、贈答品などで販売店(工事店)に修理のご相談ができない場合
「東芝家電修理ご相談センター」 0120-1048-41 (フリーダイヤル)
 - ・新製品などの商品選び、お取扱い、お手入れ方法などのご相談
「東芝家電修理ご相談センター」 0120-1048-86 (フリーダイヤル)
- 携帯電話・PHSからのご利用は (03)-3426-1048 (有料)
- ※ フリーダイヤルは、携帯電話・PHSなど一部の電話ではご利用になれません

修理サービス

ご使用中に異常が生じたときは、お使いになるのをやめ、電源を切って、お買いあげの販売店(工事店)またはお近くの東芝お客様ご相談センターにご相談ください。なお、ご相談されるときは器具の形名およびお買いあげ時期をお忘れなくお知らせください。

東芝ライテック株式会社 施設・HID事業部 〒140-8660 東京都品川区南品川2-2-13 (南品川JNビル) TEL(03)5463-8768

お客様はお読みになったあと必ず保管してください